

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学工学部 1年 影山 こと葉

1, 学習成果

今回のプログラム参加にあたり、私の漠然とした目標は中国語を少しでも話せるようになることであった。しかし、漠然とした目標だけではいけないと思うほど多くの刺激を受けた。クラスには出身が様々な留学生がおり、積極的に中国語を使い質問していた。1年間第二言語として中国語を学んでいたが、私はこの2週間で質問することはおろか、先生の説明を一生懸命聞くことしかできなかった。浙江大学の先生が「読み書きは後で、まずは話す・聞くに全力で取り組みなさい」とおっしゃった通り、より積極的に吸収しなければならないと気づかされた。2週間で話す能力はあまり伸びなかったが、聞く能力は自然と伸びた。帰国した後も中国語を勉強しようと強く思った。また、中国語を話せない場合の意思疎通手段は英語しかなかったため、英語の重要性も改めて認識した。言語を道具として使いこなせなかった悔しさは今後の学習意欲に繋げたい。

2, 海外での経験

今回のプログラムでは自由時間がある程度あり、私は校外に出かけて様々なものを見てきた。海外に行く时必须意識してしまうのは日本との違いである。食生活であったり交通であったり経済であったり、どの場面でも相違点が見受けられた。その中でも印象に残っているのはアリペイの普及である。全ての店でスマホ決済システムがあり、現金使用不可の店も少なからずあった。私たちはアリペイの登録ができなかったため現金で生活したが、不便だと感じるが多々あった。日本では中国人向けに導入が進んでいる一方、支払いはクレジットカードか現金が未だ主流である。個人情報の扱いに不安はあるものの、スマホ決済の便利さを見せつけられた気がした。

3, プログラム内容

浙江大学スプリングスクールは、通常の留学生向け中国語授業に2週間だけ参加する形で行われた。浙江大学生による面接でレベル別クラスに配属された。精読、スピーキング、リスニングの三種類の授業があり、1日2コマ授業を受けた。私が所属したクラスでは1つレベル下の内容を2週間で復習した。先述の通り、教科書を用いて、話すことに重点を置いた授業が行われた。また、課外活動では博物館の見学や劇・ナイトショーの鑑賞、西湖周辺の散策など盛りだくさんであった。自由時間はクラスの人と交流したり、観光地に出かけたりした。

4, 進路への影響

私が将来やりたいことはロボットに関することであり、方向性が変わることはない。しかし、国内でとどまてはいけないという気持ちは新たに生まれた。日本にも意欲が高い学生はたくさんいるが、それ以上に海外の学生のエネルギーが高いと感じた。語学留学だけでそのように感じるならば、専門分野ではより高度で充実した交流が可能だろうと思う。今後の語学上達度にもよるが、海外の大学生と交流し研究したい。また、将来はグローバルな会社で研究開発したいと思う。